

(2) 授業の見直しと質的改善を図るための手立て

(1) **新学習指導要領に関わる理論研究**では、授業を通して、言葉による見方・考え方を働かせて、新中学校学習指導要領に示された目標を達成することが、国語科教師がなすべきことであることを述べてきました。それに関わっては、これまでも、多くの学校で優れた実践がなされており、中学校国語科にとって貴重な財産になっています。しかし、生徒を取り巻く環境が大きく変化し続けている現在、これまで以上に、実社会に通用する資質・能力を育成することが求められています。その資質・能力を育成するためには、今、生徒ができていないことがあるならば、その原因を生徒に求めるのではなく、教師が自分の授業を振り返り、指導方法を工夫し、質的に改善していかなくてはなりません。

授業改善の三つの視点として示されている「主体的・対話的で深い学び」については、新中学校学習指導要領解説国語編において、「必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めることが求められる⁽¹⁾とされています。言語活動を通して言語能力を育成する国語科では、特に単元全体を通して資質・能力の育成を目指すという授業改善の視点をもつことが必要だと考えられます。

そこで、本研究委員会では、どのような手順で単元を構想するのか、単元構想のプロセスを重視しました。そして、単元を構想する上で、目の前の生徒がどのような姿で授業に臨んでいるかを把握し、それを基に自分の授業を見直すことによって、授業が質的に改善されると考えました。

これを受けて、本研究委員会で作成したのが、**次頁図1「授業の質的改善の手順」、4頁表1「生徒の姿チェックシート」、5～7頁表2～4「手立てシート」**です。平成29年度は、学習における生徒の望ましい姿を、主体的・対話的で深い学びの視点で学習過程に沿って整理したシートを作成しましたが、今年度はそれぞれの視点をより意識することができるように、「主に主体的な学び」「主に対話的な学び」「主に深い学び」の3つに整理し直しました。(1) **新学習指導要領に関わる理論研究のイ中学校国語科における「主体的・対話的で深い学び」**の中でも述べたように、三つの視点は学びの過程としては一体として実現されるものであり、それぞれ相互に影響し合うものですから、はっきりと分けて考えることはできません。しかし、三つの視点は、「学びの本質として重要な点を異なる側面から捉えたものであり、授業改善の視点としてはそれぞれ固有の視点であることに留意が必要である⁽²⁾とされています。「生徒の姿チェックシート」に示した学習における生徒の望ましい姿から、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を具体的にイメージしていただければと思います。また、「手立てシート」には、三つの視点に沿った手立ての例を示していますが、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導方法は限りなく存在し得るものであり、生徒たちの発達の段階や学習内容、単元の構成等に応じた、ふさわしい手立てを選択することが必要です。単元や題材のまとまりの中でどのような手立てを取り入れることができるのか、手立てを考える際のヒントにいただければと思います。

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説国語編』 平成29年7月 p.131
 (2) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 平成28年12月 p.50

①
つかむ

■生徒の実態を把握する。

アンケート、レディネステスト、学習状況調査の結果等を基に、「生徒の姿チェックシート」を使って、生徒の実態を把握しましょう。

■指導事項（身に付けさせたい力）を明確にする。

学習指導要領に示されている指導事項に準拠して、生徒に身に付けさせたい力は何なのか、明確にしましょう。

■教材を分析する。

教材を分析し、学年間の系統性や単元の関連等を把握しましょう。

②
構想する

■適切な言語活動を設定する。

指導事項（身に付けさせたい力）を身に付けさせるのにふさわしい言語活動を設定しましょう。

■単元全体や1単位時間の指導計画を立てる。

指導事項（身に付けさせたい力）、生徒の実態を踏まえ、どのような手立てを取り入れるか考えながら、指導計画を立てましょう。（「手立てシート」参照）

③
実践する



④
振り返る

■生徒の変容と指導との関連を考える。

生徒の変容を捉えるとともに、効果があった指導、効果が上がらなかった指導やその原因等について振り返りましょう。

①～④の手順を繰り返しながら、授業の質的改善を図っていきましょう。

図 1 授業の質的改善の手順

授業の質的改善の手順の中での「生徒の姿チェックシート」「手立てシート」の使い方

前頁図 1「授業の質的改善の手順」に沿って、次頁表 1「生徒の姿チェックシート」と、5～7 頁の表 2～4「手立てシート」の使い方をご紹介します。 内の使用例と合わせてご覧ください。

①つかむ

まず、生徒の実態把握、指導事項（身に付けさせたい力）の決定、教材の分析を行いましょう。生徒の実態を把握する際に、表 1「生徒の姿チェックシート」をご活用ください。

表 1「生徒の姿チェックシート」は、ア～コの項目を読んで、過半数の生徒ができていと思われる項目のチェック欄に✓を付けます。✓が付かなかったところが、改善していきたい項目ということです。

例ではウに✓が付いていないので、ウに関する手立てが必要だということになります。

表 1 生徒の姿チェックシート

※過半数の生徒ができていと思われる項目のチェック欄に✓を付けます。

	生徒の望ましい姿	チェック	授業改善の手立て
主に 主体的な学び	ア 学習内容に関心を示し、見通しをもって学習に向かおうとしている。	✓	【関心】 A①②③ 【見通し】 A④⑤⑥⑦⑧⑨
	イ 自分の考えをもって、粘り強く学習に取り組もうとしている。	✓	【粘り強く】 A⑩⑪⑫⑬
	ウ 学習を振り返り、自分が学んだことを理解している。	 	【振り返り】 A⑭⑮⑯⑰

②構想する

①つかむ

で決定した指導事項（身に付けさせたい力）を身に付けさせるのにふさわしい言語活動を設定し、指導計画を立てましょう。生徒の実態を踏まえて指導計画を立てる際に、表 2～4「手立てシート」をご活用ください。

表 1「生徒の姿チェックシート」で✓が付かなかった項目の「授業改善の手立て」の欄を見ます。その欄に示されている記号を表 2～4「手立てシート」と照らし合わせ、内容を確認します。そして、どの手立てを取り入れるか選択します。

例でいうと、手立てが「A⑭⑮⑯⑰」と示されているので、表 2「手立てシート A」で手立ての内容を確認して、手立てを決めます。

学び	ウ 学習を振り返り、自分が学んだことを理解している。	【振り返り】 A⑭⑮⑯⑰
----	----------------------------	---

表 2 手立てシート A

A 主に 主体的な学び	
	①興味・関心をもって取り組むことができるようにするために、課題設定を工夫する。 (目的意識・相手意識が明確な課題、身近な課題、生徒の問題意識から生じた課題、自己選択できる課題等)
まとめ	<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px;"> ⑭生徒が自分の学習過程や思考の過程をたどることができるようにするために、板書やワークシート等を工夫する。 ⑮自己の変容に気付くことができるようにするために、ノートやワークシート等を基に、自分の考えの過程を振り返らせる。 ⑯自分の学びのよさや課題に気付くことができるようにするために、振り返りの視点を示す。 ⑰学んだ内容を再確認し、次の学習につなげることができるようにするために、単元を通して身に付けた力を振り返る場を設定する。 </div>

※示している手立ては、あくまでも一例です。授業改善の手立ての欄に示す記号以外でも、有効だと思われる手立てがあれば、取り入れていただくことも可能です。

③実践する

②構想する

で決定した手立てを取り入れた授業を実践します。

④振り返る

単元が終わったら、生徒の変容や取り入れた手立てについての振り返りを行い、次の単元構想に生かしてください。

①～④の手順を繰り返しながら、授業の質的改善を図っていきましょう。




表 1 生徒の姿チェックシート

※過半数の生徒ができていと思われる項目のチェック欄に✓を付けます。

	生徒の望ましい姿	チェック	授業改善の手立て
主に 主体的な 学び	ア 学習内容に関心を示し、見通しをもって学習に向かおうとしている。		【関心】 A①②③ 【見通し】 A④⑤⑥⑦⑧⑨
	イ 自分の考えをもって、粘り強く学習に取り組もうとしている。		【粘り強く】 A⑩⑪⑫⑬
	ウ 学習を振り返り、自分が学んだことを理解している。		【振り返り】 A⑭⑮⑯⑰
主に 対話的な 学び	エ ペア学習や話し合い活動に、意欲をもって参加している。		【意欲】 B①②③
	オ 対話を通して多様な考えを得て、自らの考えを広げている。		【広げる】 B④⑤⑥⑦⑧
	カ 対話を通して多様な考えを得て、自らの考えを深めている。		【深める】 B⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯
主に 深い 学び	キ 学習過程の中で、自ら「問い」*（課題）を見だし、解決策を考えている。		【問い】 C①②③
	ク 学習の中で得た情報を精査し、自らの考えを形成している。		【情報の精査】 B⑨⑩⑪ C④ 【考えの形成】 A⑪ B⑫⑬⑭⑮⑯ C⑤⑨
	ケ 学んだ知識を相互に関連付けて、より深く理解している。		【関連付け】 C⑥⑦
	コ 自分が学んだことを、日常生活や社会生活、他教科の学習につなげている。		【創造】 C⑧⑩⑪⑫

※「授業改善の手立て」欄の記号A①～C⑯は、「手立てシート」の記号に対応しています。✓が付かなかった項目について示された手立てを、次の単元で取り入れてみましょう。

* 「問い」

「学習課題から導かれた一人一人の生徒が立てる課題解決のための自身の問題」のことです。

[例] 学習課題 この単元では、人物や情景を描いた表現に着目して、登場人物の心情を捉える学習をします。冒頭の場面と回想場面を関連付けて、冒頭の場面に戻って作品の続きを書きます。（「少年の日の思い出」）

問い ・「客」は、なぜ「私」に過去の過ちについて語ったのだろうか。

・冒頭の場面では、どのような情景描写から「客」の心情が捉えられるだろうか。等



表 2 手立てシート A

A 主に 主体的な学び	
導入	<p>①興味・関心をもって取り組むことができるようにするために、課題設定を工夫する。 (目的意識・相手意識が明確な課題, 身近な課題, 生徒の問題意識から生じた課題, 自己選択できる課題等)</p> <p>②興味・関心をもって取り組むことができるようにするために、単元の魅力を語る。</p> <p>③興味・関心をもって取り組むことができるようにするために、単元で身に付けたい力が、生活や学習のどのような場面で役立つかを示す。</p> <p>④学習の見通しをもつことができるようにするために、生徒と一緒に学習計画を立てたり、学習計画を示したりする。</p> <p>⑤学習の見通しをもつことができるようにするために、学習にかかる時間や単元の流れなど、学習計画についてグループで話し合う場を設定する。</p> <p>⑥学習のゴールを明確につかむことができるようにするために、単元で行う言語活動について、教師が演示をしたり、教師が作成したモデルを提示したりする。</p> <p>⑦1 単位時間の見通しをもつことができるようにするために、「めあて」と学習の流れを示す。</p> <p>⑧学習の見通しをもつことができるようにするために、学習計画表やワークシートなどに、身に付けたい力を明示する。</p> <p>⑨学習の見通しをもつことができるようにするために、学習の評価の仕方を具体的に説明する。</p>
展開	<p>⑩粘り強く学習に取り組むことができるようにするために、生徒が自己選択したり、自己決定したりする場を設ける。</p> <p>⑪一人でも考えることができるようにするために、ヒントカード等を準備する。</p> <p>⑫思考を可視化することができるようにするために、自分の考えを整理したり、構造化したりする場を設定する。</p> <p>⑬自ら情報収集することができるようにするために、ブックリスト*¹やレファレンスサービス*²等を利用する。</p> <p>⑭生徒が自分の学習過程や思考の過程をたどることができるようにするために、板書やワークシート等を工夫する。</p>
まとめ	<p>⑮自己の変容に気付くことができるようにするために、ノートやワークシート等を基に、自分の考えの過程を振り返らせる。</p> <p>⑯自分の学びのよさや課題に気付くことができるようにするために、振り返りの視点を示す。</p> <p>⑰学んだ内容を再確認し、次の学習につなげることができるようにするために、単元を通して身に付けたい力を振り返る場を設定する。</p>

※ここに示しているのは、あくまでも手立ての一例です。

* 1 「ブックリスト」

ある基準で選択され、本を薦めたり、紹介したりするために作られた目録のことです。

* 2 「レファレンスサービス」

日常の疑問解決や調査・研究のための資料探しなど、必要な資料・情報を探している人に、図書館資料(本など)や情報の探し方を知らせ、調べ物を手伝うサービスのことです。



表 3 手立てシート B

B 主に 対話的な学び	
導入	<p>①意欲をもって対話できるようにするために、話し合う必然性のある課題を設定する。 (答えが複数ある課題, 単純に答えることができない課題等)</p> <p>②スムーズに話し合いを行うことができるようにするために、グループ内で役割を決めて話し合いを行わせる。 (司会, 記録, 発表, タイムキーパー等)</p> <p>③スムーズに話し合いを行うことができるようにするために、話し合いの目的や進め方, ルール等を明示する。</p> <p>④自らの考えを広げることができるようにするために、個人の「問い」を共有する場を設定する。</p> <p>⑤自らの考えを広げることができるようにするために、課題に対する予想や解決方法を話し合う場を設定する。</p>
展開	<p>⑥自らの考えを広げることができるようにするために、最適な対話の形態を選択する。 (ペア学習, グループ学習, 教職員や地域の人との対話, 資料との対話等)</p> <p>⑦自らの考えを広げることができるようにするために、話し合いの目的に合ったグループの形式, 人数, 構成を工夫する。</p> <p>⑧立場を明確にした交流を行うことができるようにするために、話し合い活動の前に、自分の考えとその根拠をもたせるための時間を確保する。</p> <p>⑨自分の意見と区別することができるようにするために、他者の意見はペンを使って書かせたり、書く場所を変えたりさせる。</p> <p>⑩自他の考えを可視化できるようにするために、ホワイトボード等を用いて考えを整理させる。</p> <p>⑪自分の考えを深めることができるようにするために、情報の整理の仕方を示す。 (比較する, 関連付ける, 順序立てる, 分類する, 構造化する等)</p> <p>⑫自分の考えを確かなものにすることができるようにするために、自分と他者の共通点や相違点を比較させる。</p> <p>⑬自らの考えを深めることができるようにするために、理由や根拠 (なぜ, どうして), 具体例 (例えばどうなる) など, 問い返しの質問を一覧表にしたものを, 教室に掲示したり配付したりする。</p> <p>⑭考えを確かなものにすることができるようにするために、話し合いのまとめ方を示す。 (付箋に書いてグルーピングする, ホワイトボードに図を使ってまとめる等)</p>
まとめ	<p>⑮自らの考えを深めることができるようにするために、共有した内容を書いたり発表したりして表現させる。</p> <p>⑯自らの考えを深めることができるようにするために、多様な他者 (教師, 生徒, 地域の人など) からの評価の場を設定する。</p>

※ここに示しているのは、あくまでも手立ての一例です。

表 4 手立てシート C

C 主に 深い学び	
導入	<p>①「問い」を見いだすことができるようにするために、課題設定を工夫する。 (多様な考えや感じ方が生まれる課題, 簡単には解決できない少し難しい課題, 他教科と関連させた課題等)</p> <p>②自分に合った「問い」を選ぶことができるようにするために、複数の「問い」を提示する。</p> <p>③自分の「問い」をもつことができるようにするために、学校図書館やインターネット等から多様な情報を収集させたり、提示したりする。</p>
展開	<p>④情報を精査することができるようにするために、集めた多様な情報を比較したり関連付けたりする場を設定する。</p> <p>⑤ペアやグループで交流した内容を共有することができるようにするために、全体で発表したり掲示したりする。</p> <p>⑥既習の知識及び技能を活用することができるようにするために、ファイリングしておいたワークシート等を振り返らせる。</p>
まとめ	<p>⑦身に付けた知識及び技能, 考え方等を他の学習でも活用できるようにするために、ファイル等に整理させる。</p> <p>⑧成長を自覚し, 次の学習につなげることができるようにするために、自分の変容について振り返らせる。</p> <p>⑨自分の学びを振り返ることができるようにするために、「気付いたこと」「考えたこと」「できたこと」「これからやってみたいこと」等を自分の言葉で表現させる。</p> <p>⑩学習したこととどのような価値があるかを認識できるようにするために、実生活, 既習の学び, 他教科との関連を想起させる。</p> <p>⑪学んだことを他の学習につなげることができるようにするために、学びを活用する場や, 新たな疑問を生み出す場を設定する。</p> <p>⑫学んだことと学校生活や実社会とのつながりに気付くことができるようにするために、身に付けた資質・能力が使える場を提示する。</p>

※ここに示しているのは、あくまでも手立ての一例です。